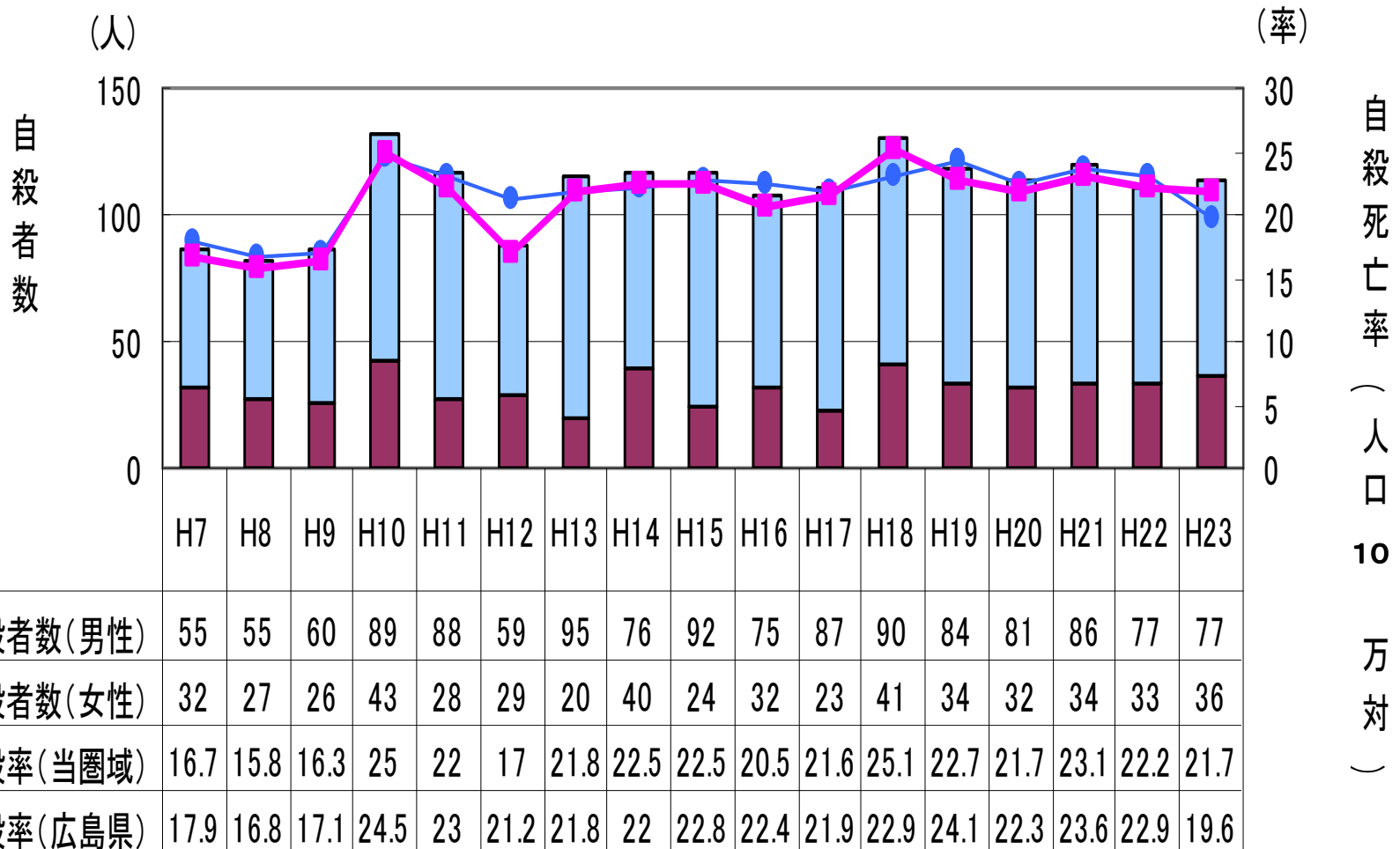


「勤労者のストレスと対処法」 実態調査結果

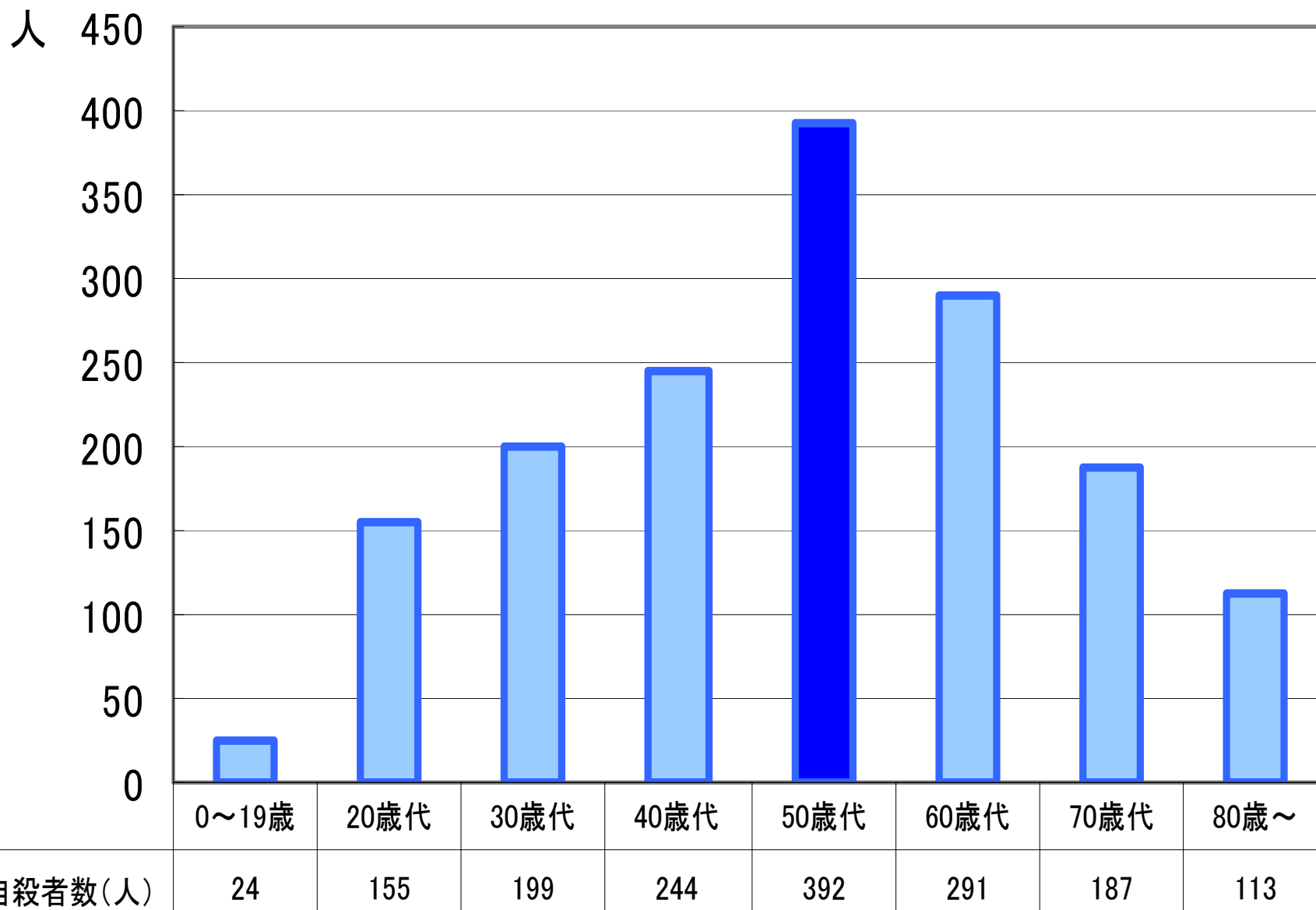
～うつ・自殺対策サポートネットシステム～
かかりつけ医と精神科医との医療連携

福山・府中地域保健対策協議会
健康増進計画委員会・うつ・自殺対策医療連携協議会

自殺者数及び自殺死亡率(福山・府中圏域)



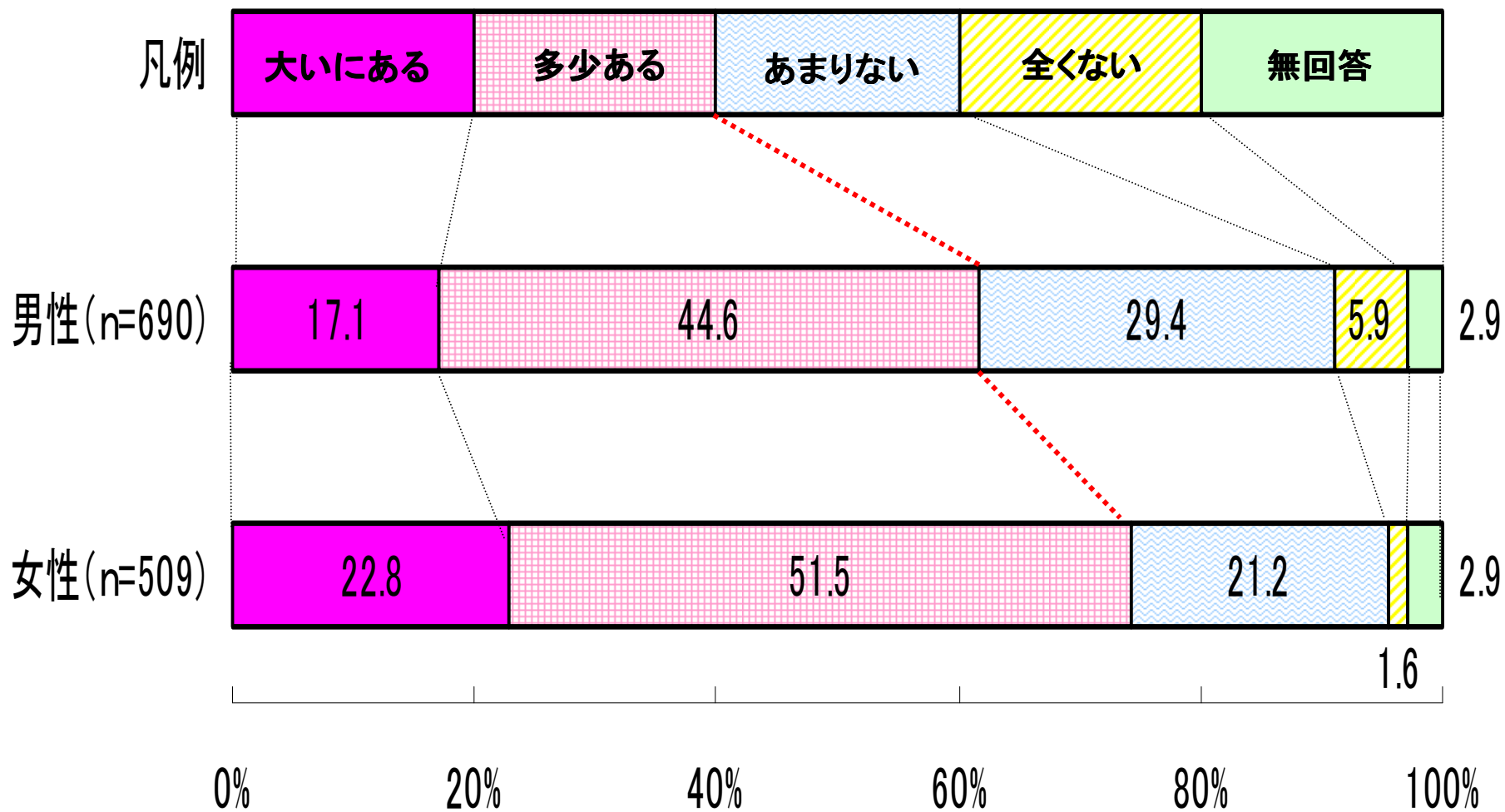
H10～H23年 年齢階級別自殺者数 総数（福山・府中圏域）



「勤労者のストレスと対処法」実態調査

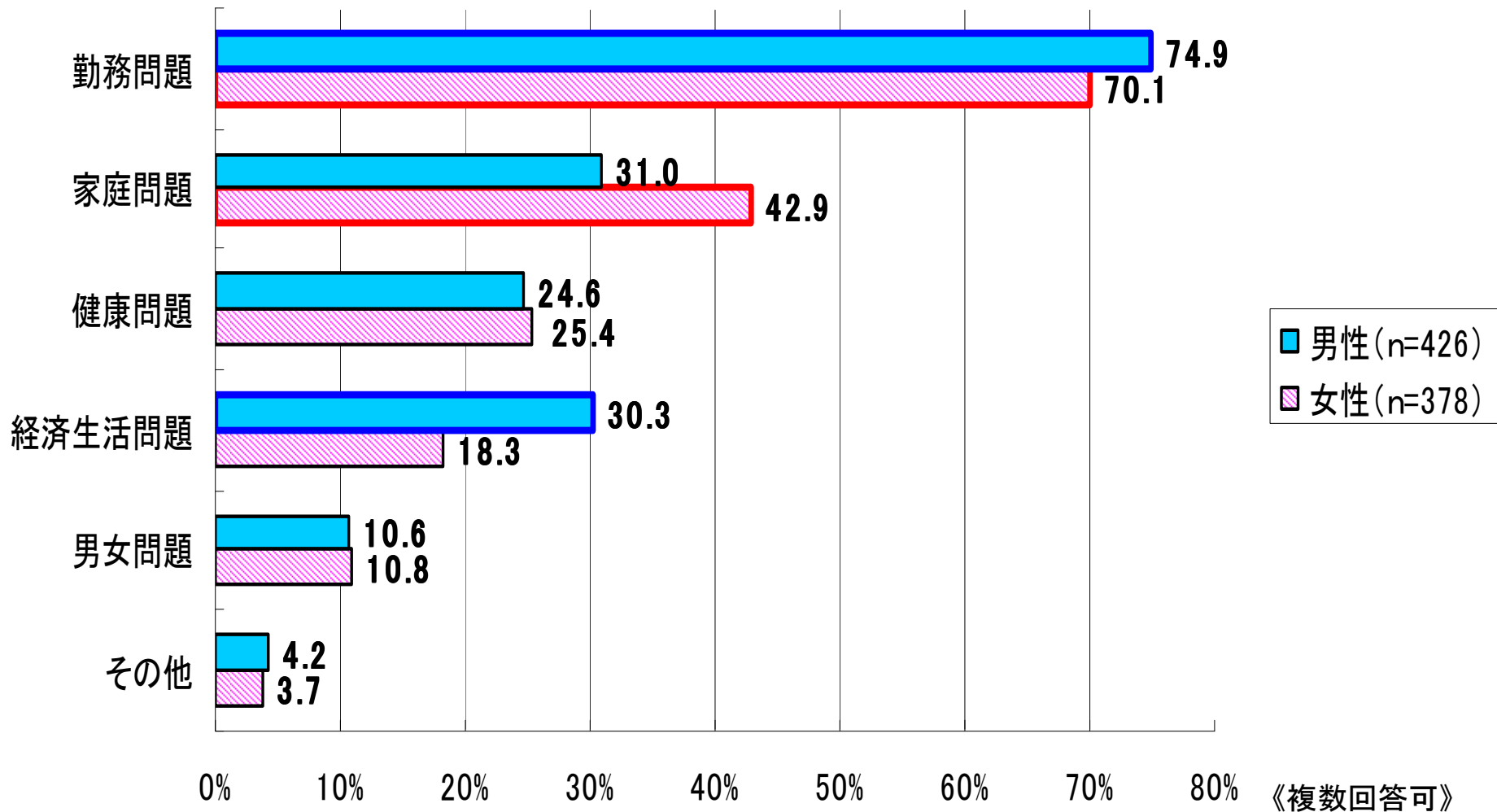
- 圏域内の事業所従業員 1,536人
- 有効回収数（率） 1,203人（78.3%）
- 調査項目
 - （1） 悩みやストレスに関すること
 - （2） うつに関する意識
 - （3） 地域の社会資源に関すること

不満・悩み・苦勞・ストレスの有無

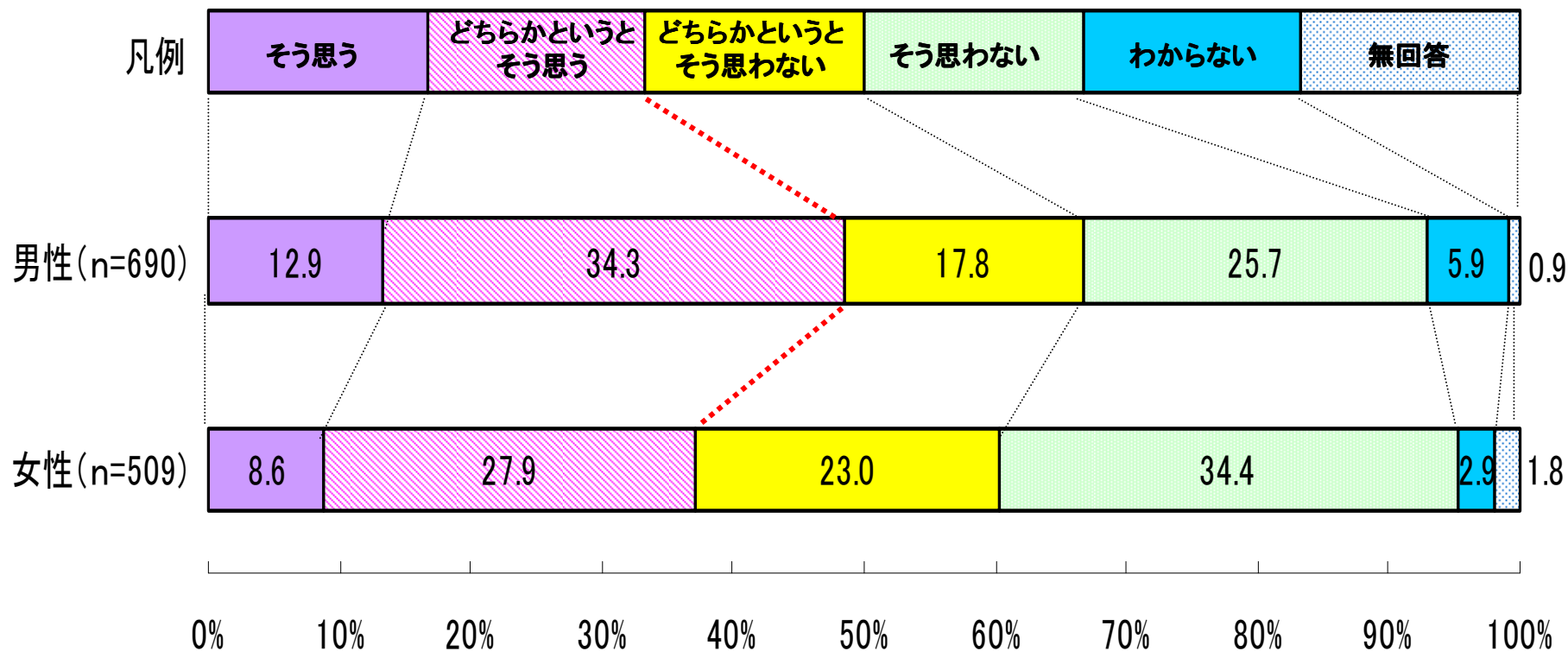


不満・悩み・苦勞・ストレスの原因

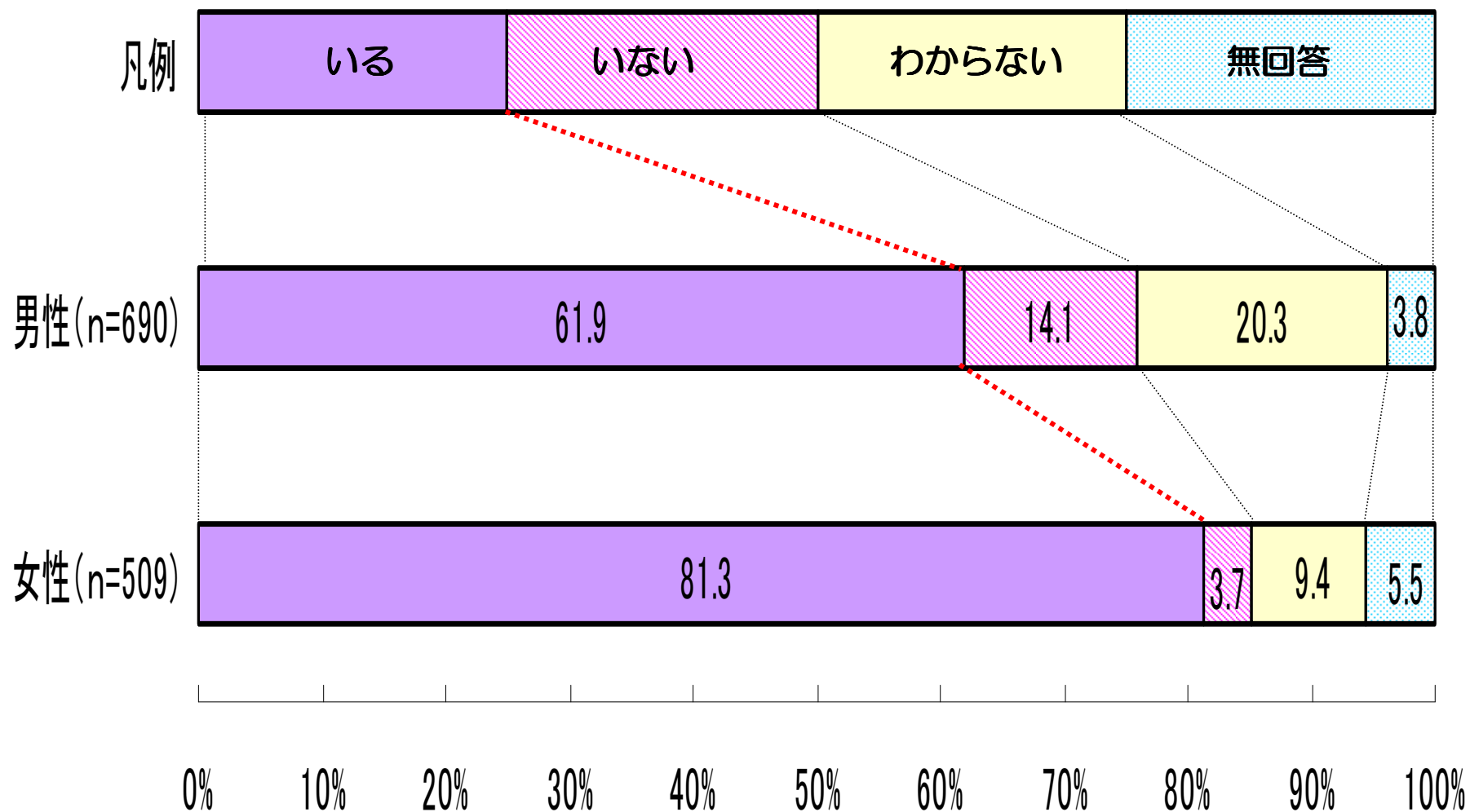
図1 不満・悩み・苦勞・ストレスの原因(性別)



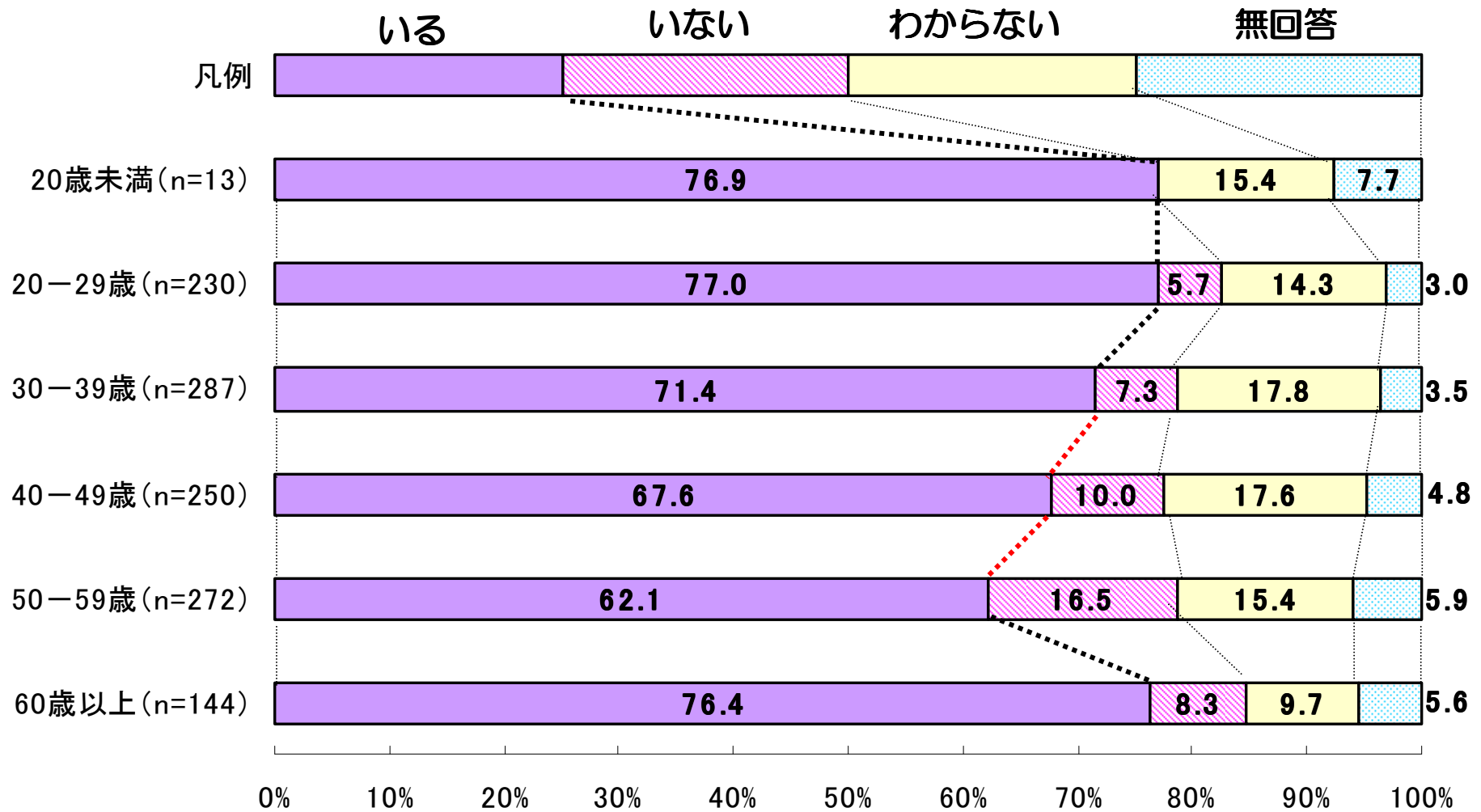
悩みやストレスを相談することによりためらいを感じるか



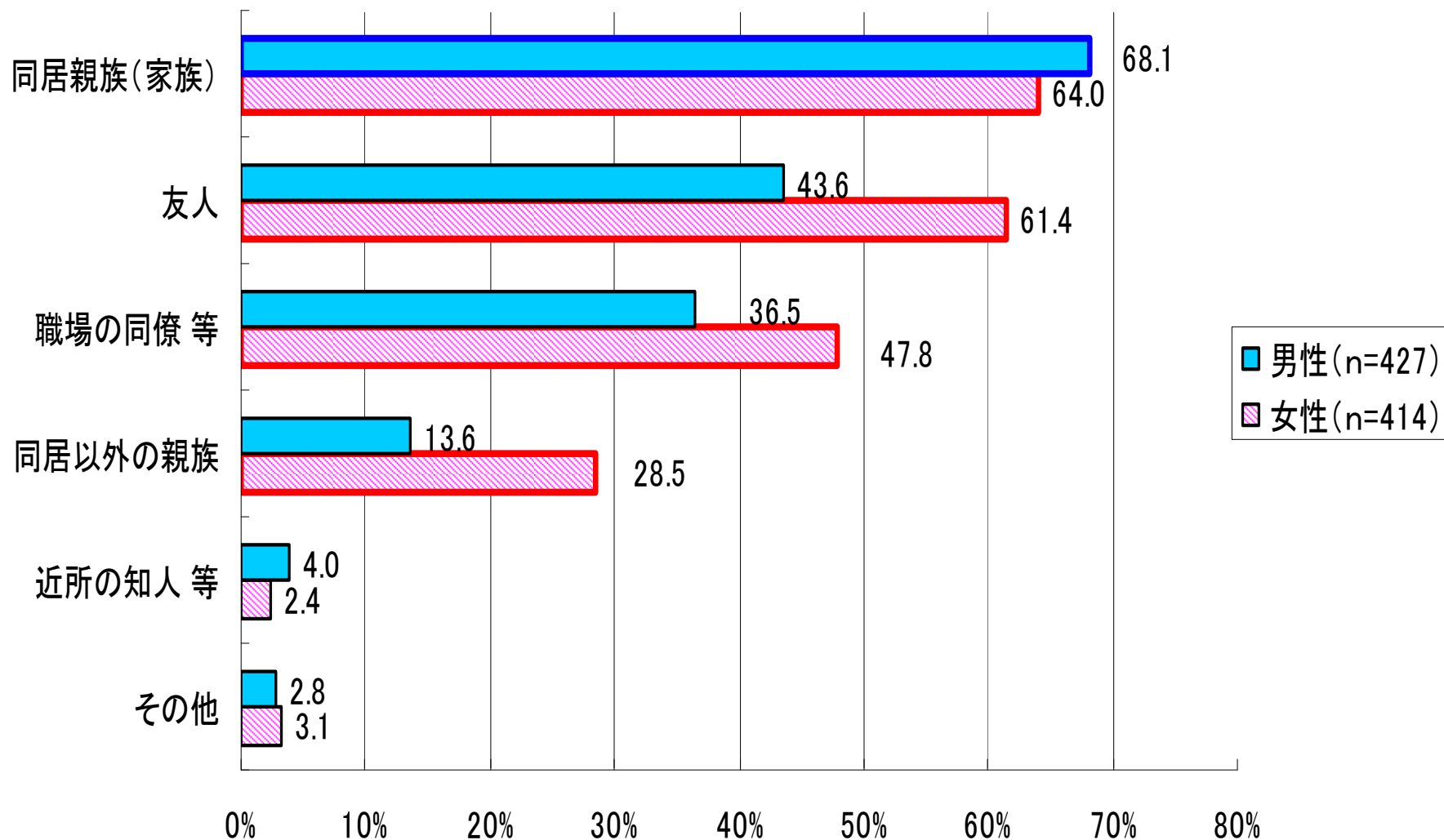
悩みやつらい気持ちの相談相手の有無



悩みやつらい気持ちの相談相手の有無



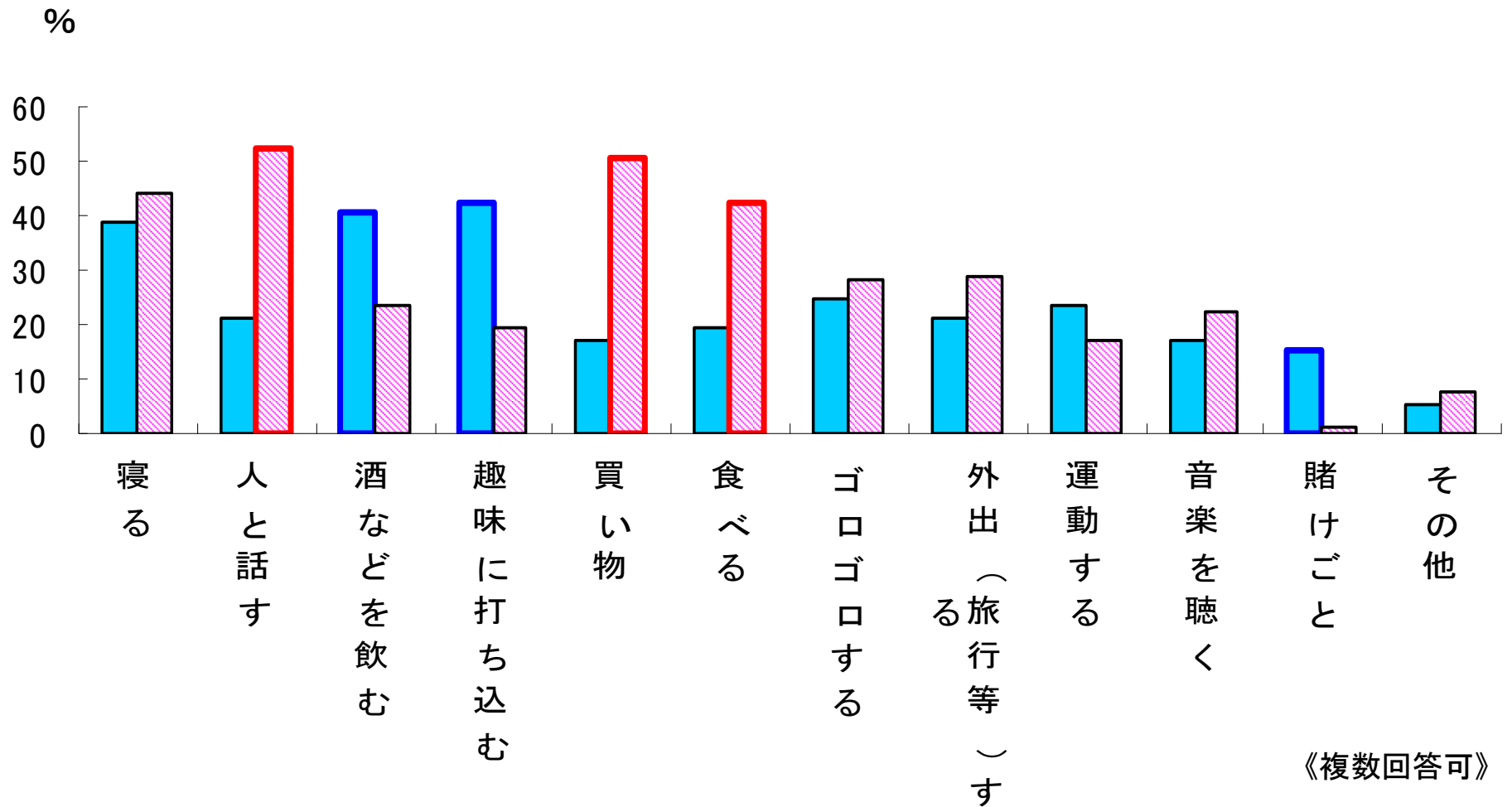
悩みやつらい気持ちの相談相手



ストレス解消法

1人当たりのストレス解消法
男性：2.9 女性：3.4

■ 男性(n=690) ■ 女性(n=509)



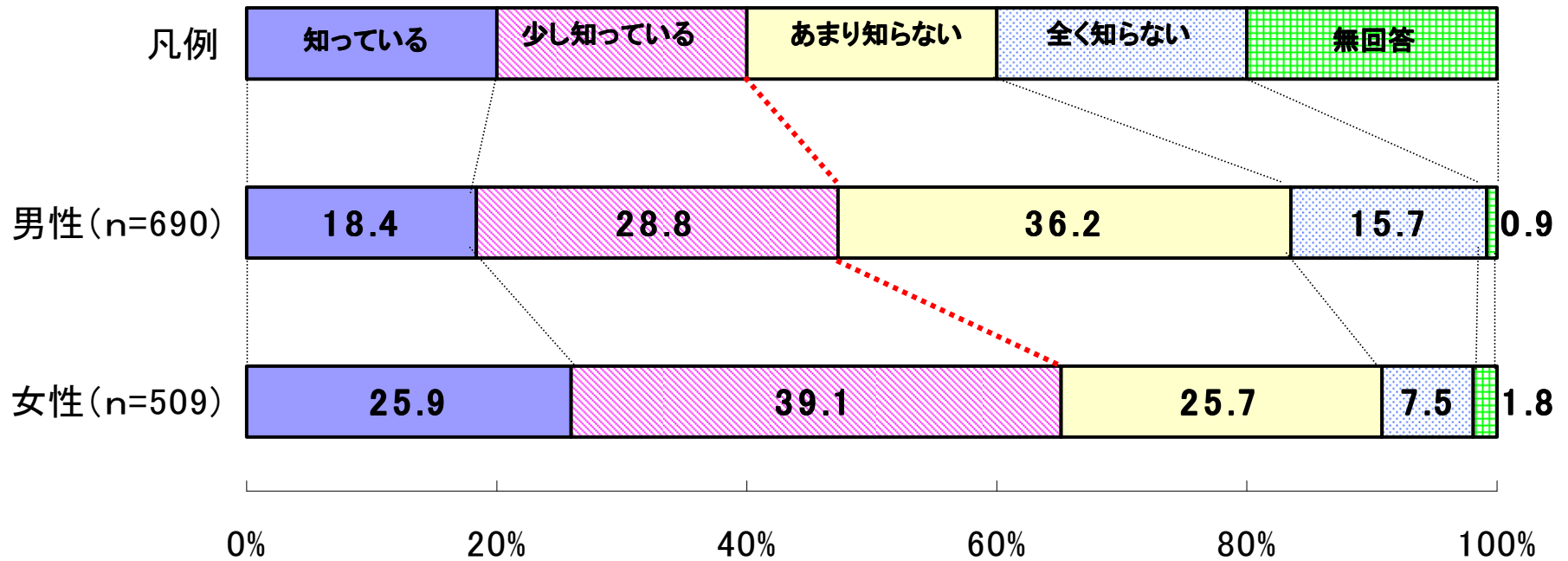
◆女性は男性に比べると・・・

- 悩みを相談することに抵抗感が少ない
- 相談相手も幅広く多い
- ストレス解消法もたくさん持っている

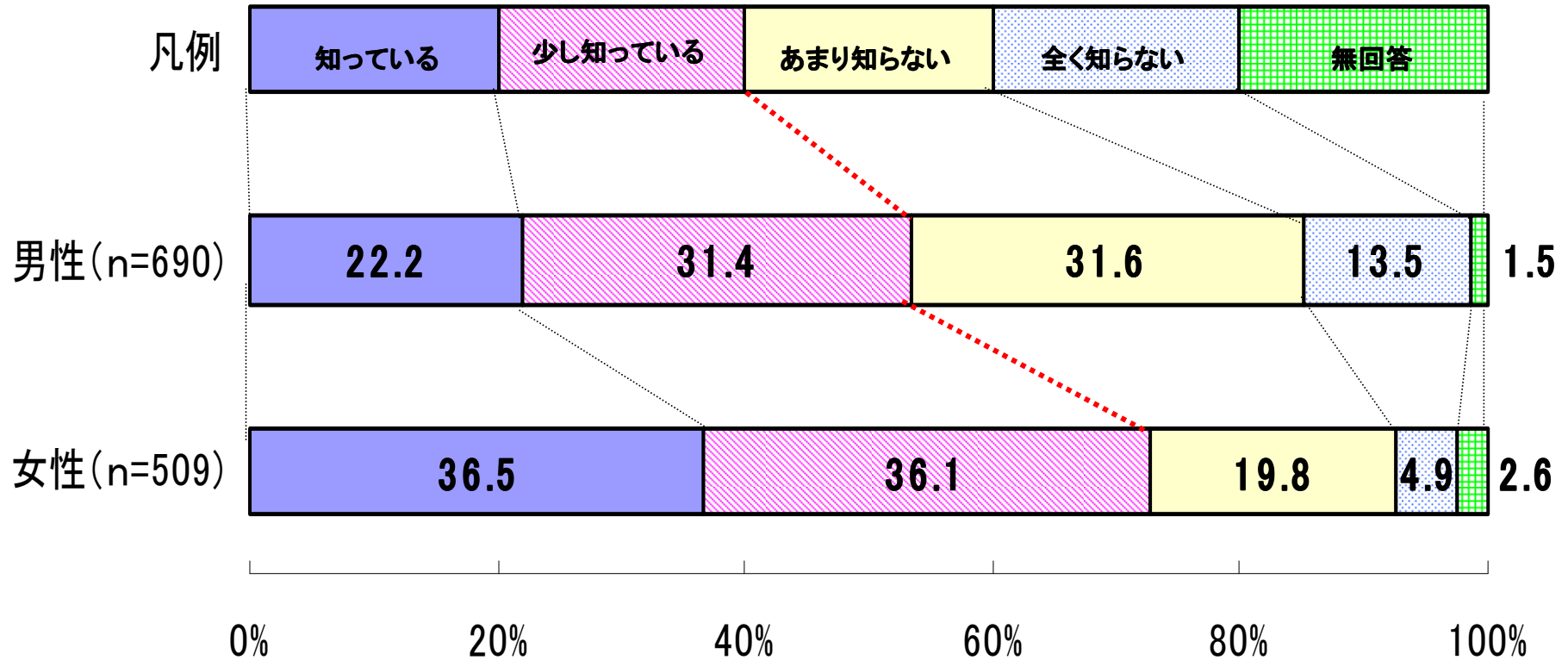
◆男性は女性に比べると・・・

- 悩みを相談することに抵抗感を持つ人が多い
- 相談相手が少ない
- ストレス解消法をあまり持たない

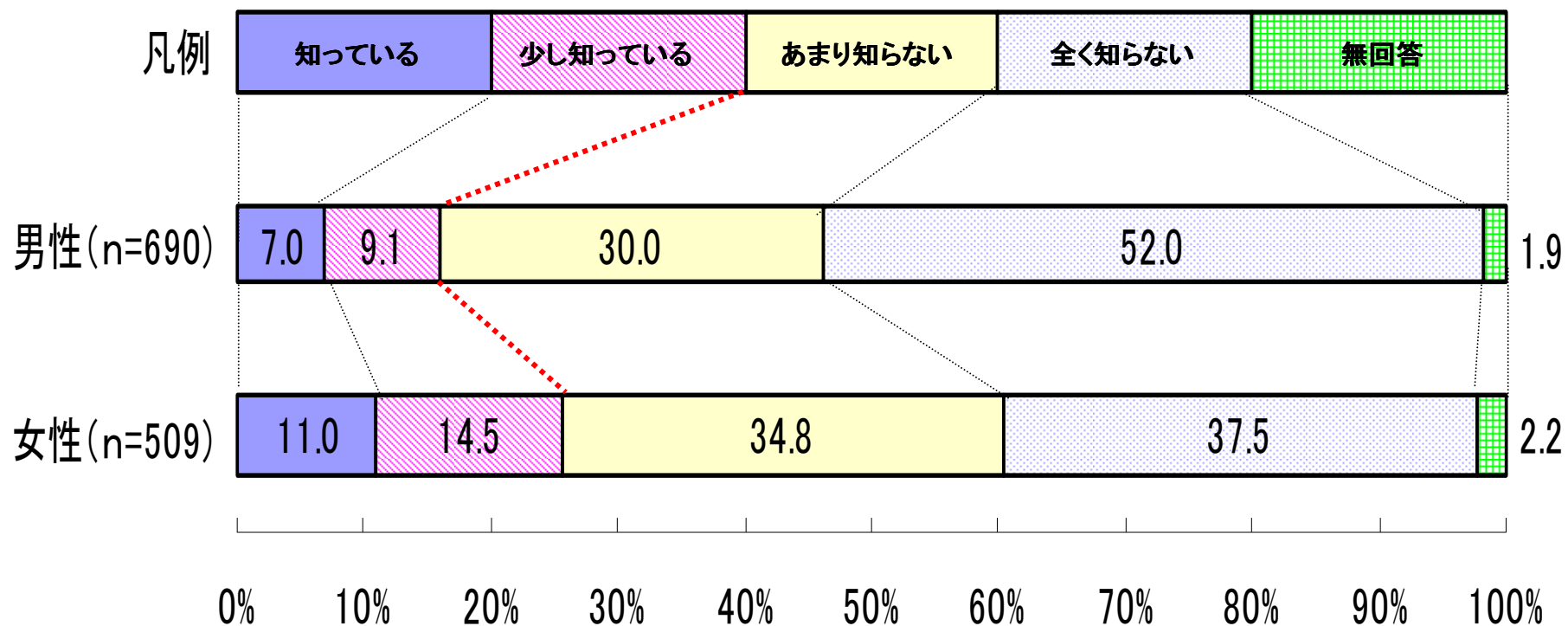
うつ病の症状に関する知識



うつ病の治療及び対処に関する知識

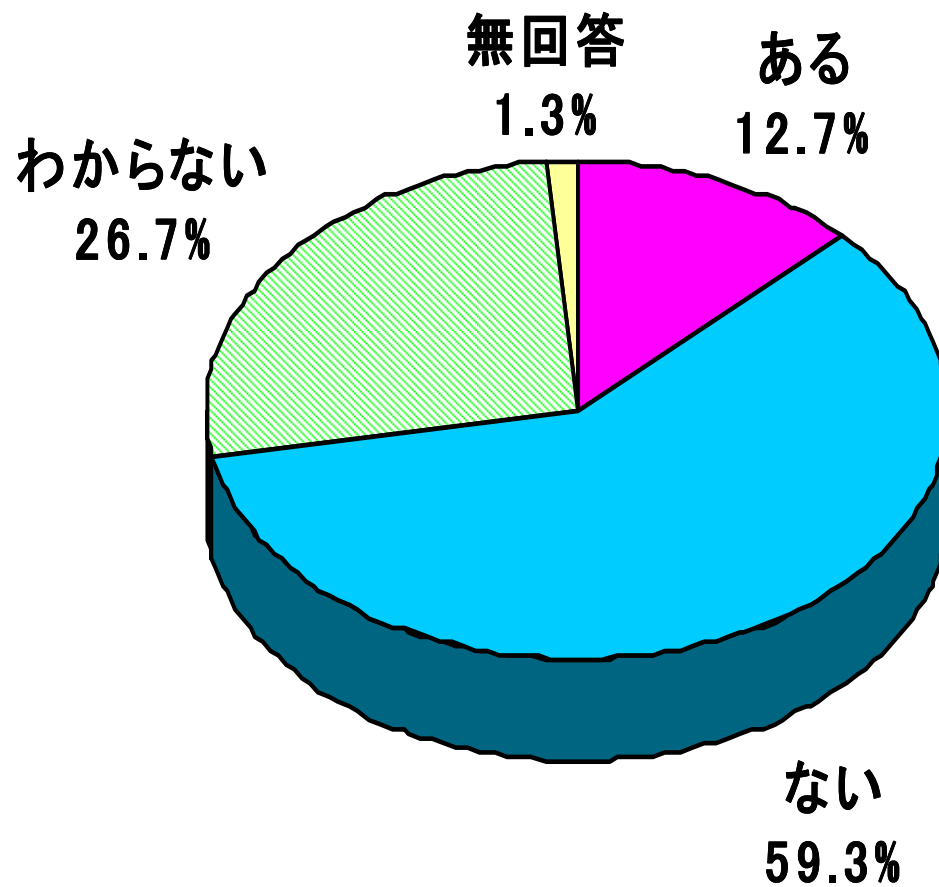


市町の「こころの健康相談」の認知

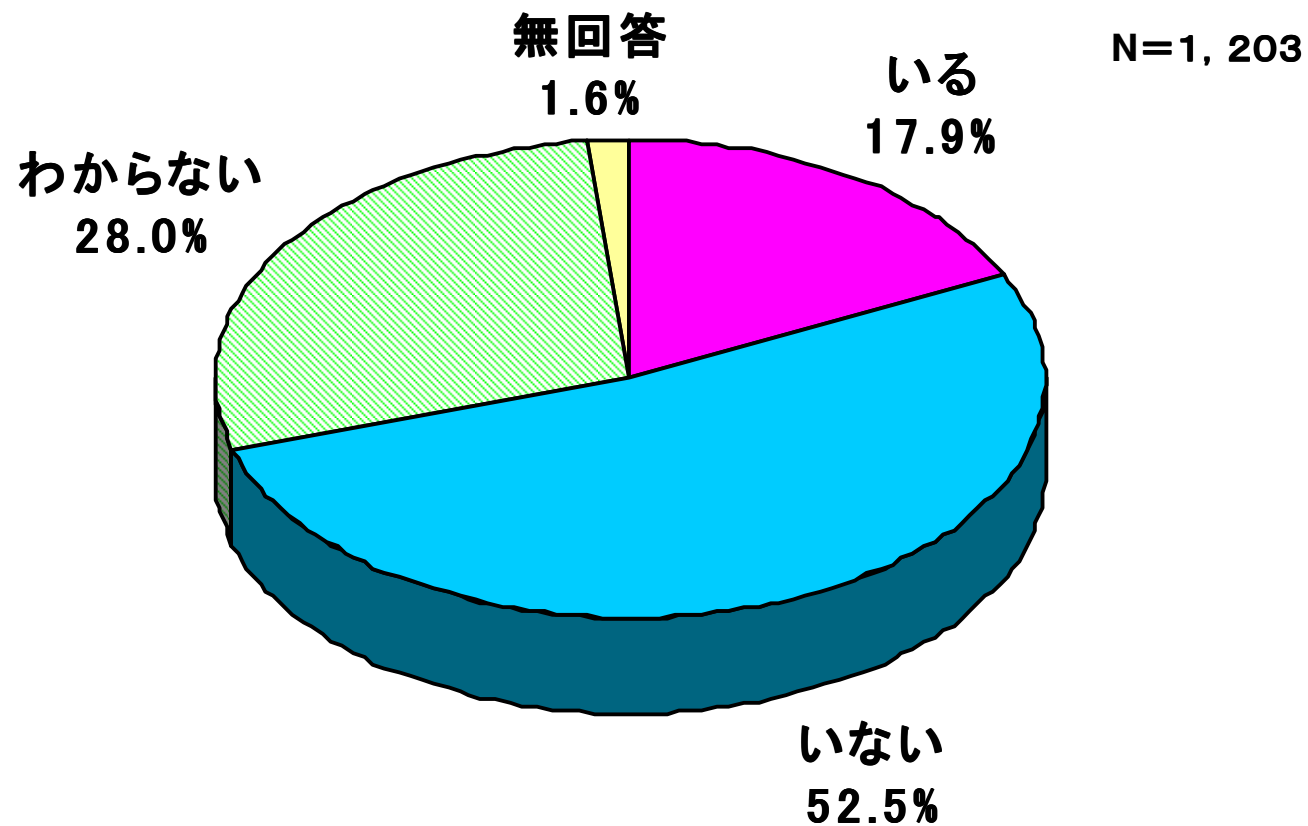


精神的な不調についての職場の相談窓口

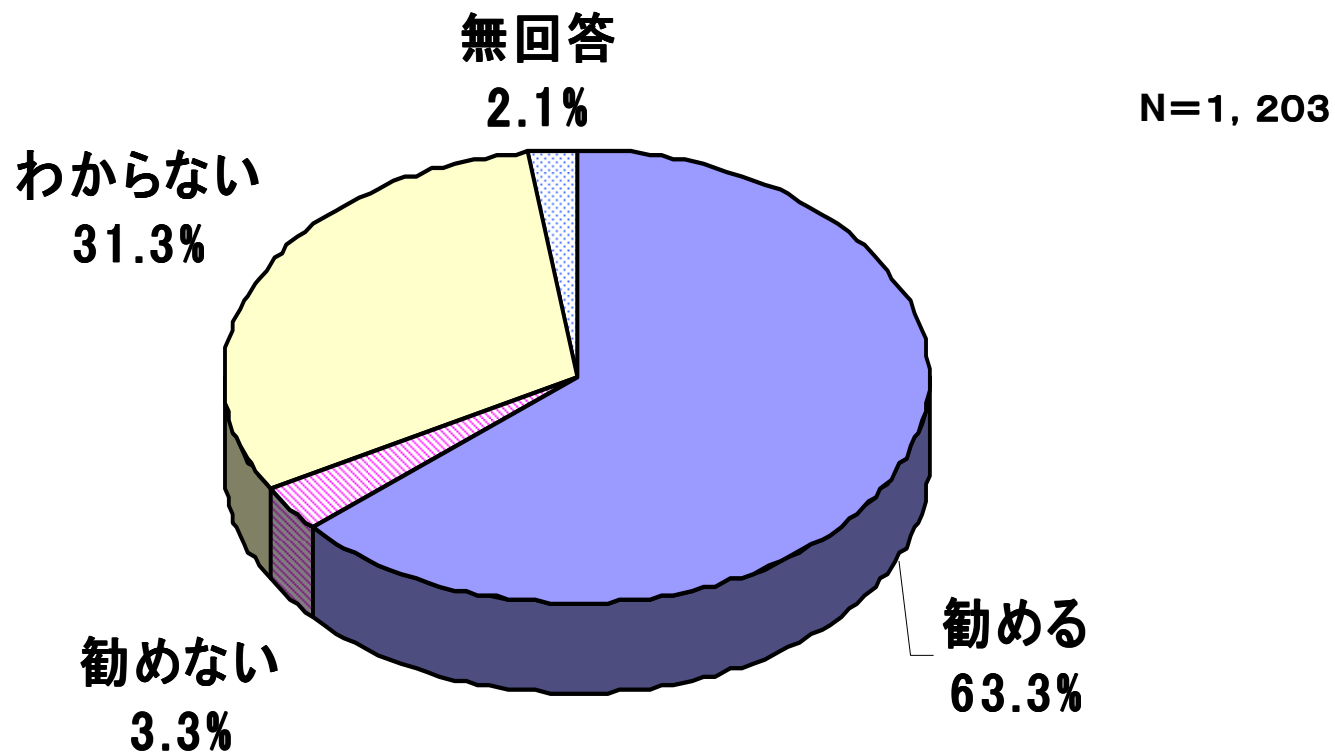
N=1, 203



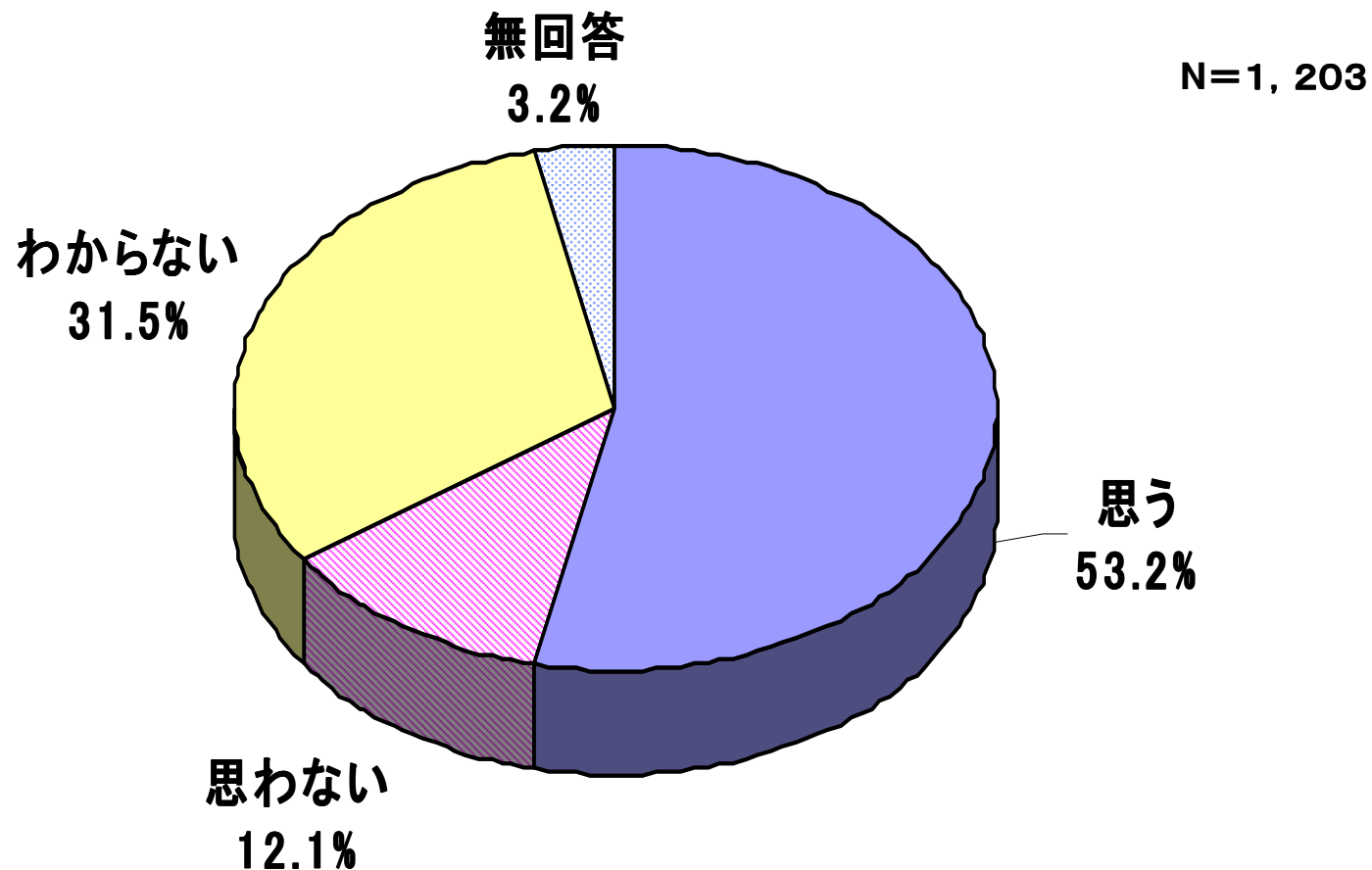
精神的な不調についての職場の担当者



身近な人の「うつ病」等のサインに気づいたとき 医療機関への相談を勧めるか



自分自身の「うつ病」等のサインに気づいたとき 医療機関へ受診しようと思うか



◆職場において

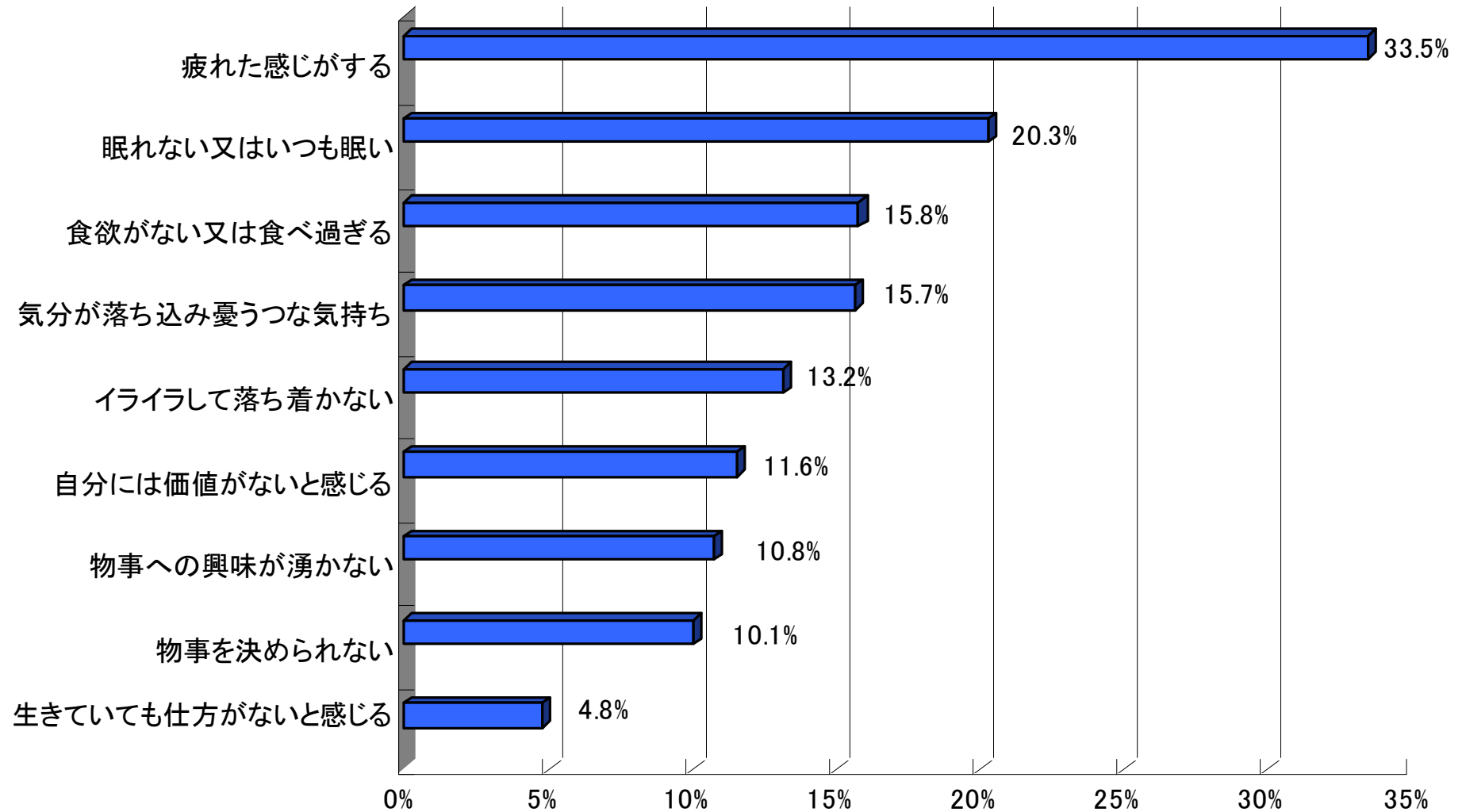
- 気軽に相談できる窓口や体制の整備
- 本人からの自発的な相談は難しい場合も多い
- 職場の上司や同僚が本人の不調に気づき、対処を促すことが重要

◆受診を促す際は・・・

- 精神的な不調を指摘されることに抵抗感を持つ人も多い
- 本人の症状にじっくり耳を傾ける
- 周囲が心配していることを伝える
- 産業保健スタッフや産業医との連携で受診を勧める

うつ症状の有無

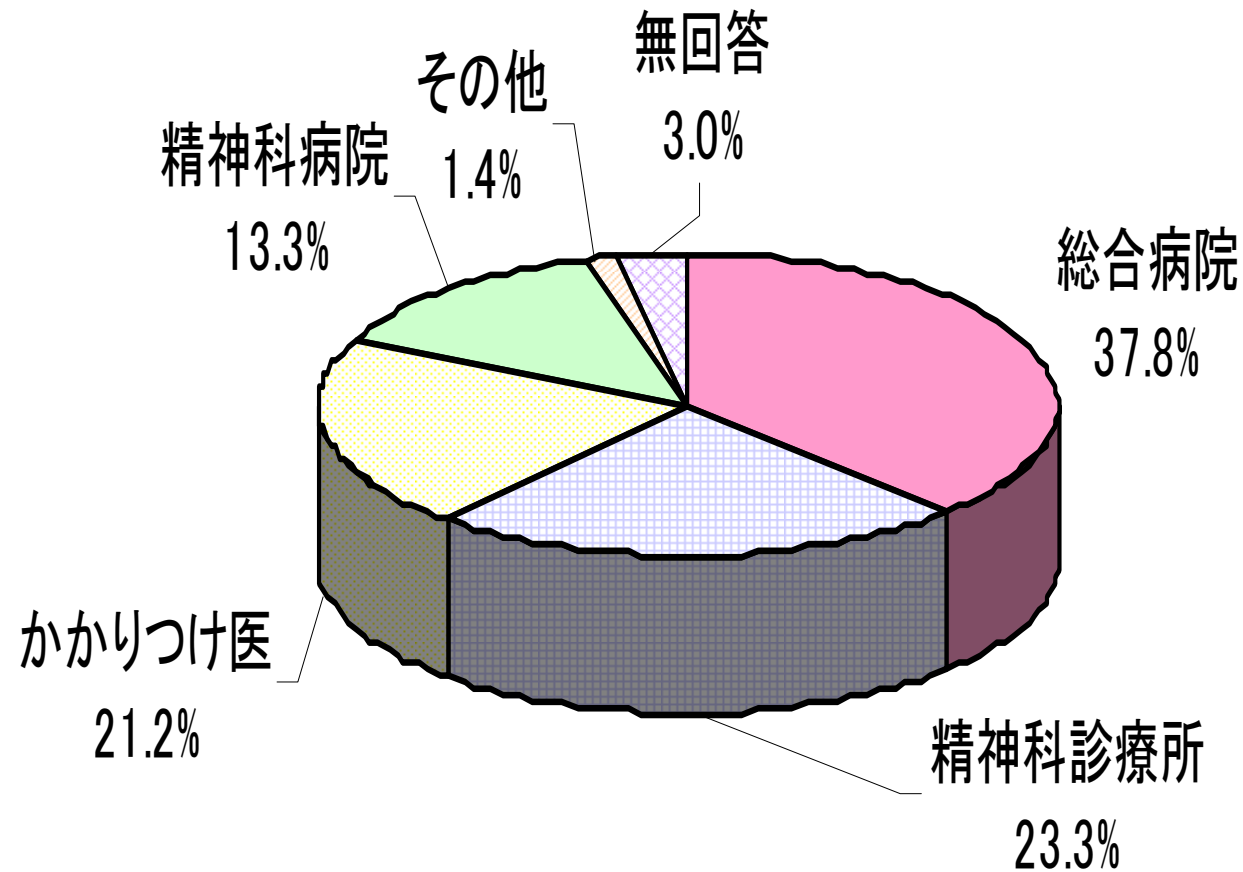
N=1, 203



《複数回答可》

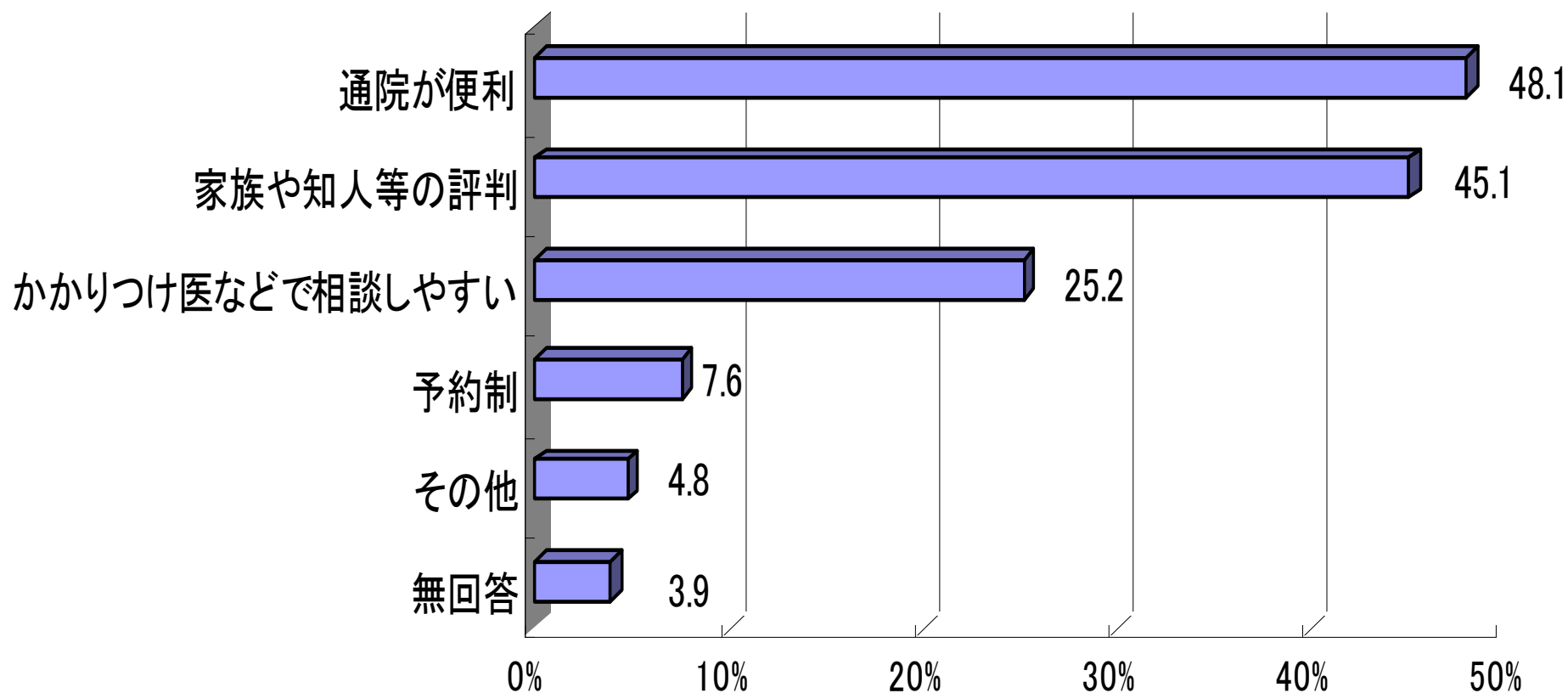
精神的な不調を感じたときに 受診すると思う医療機関

N=1, 203



精神的な不調を感じたときに 受診する医療機関を決める理由

N=1, 203



《複数回答可》

◆福山・府中圏域の精神科医療機関

- 総合病院や精神科診療所は数が限られている
- 予約待ちがありすぐに受診できない場合も多い

◆かかりつけ医は・・・

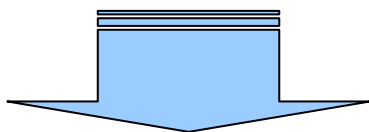
- 身近な地域に多数ある
- 土曜日や夕方などの受診が可能
- 不眠や食欲不振などの身体症状を主訴として受診しやすい

◆うつ・自殺対策サポートネットシステム

- 福山・府中地域保健対策協議会
- 産業医・かかりつけ医・精神科医
行政が連携
- うつ病等の治療を早急かつ確実に
実施
- 自殺の危機回避が可能な体制を整備

◆かかりつけ医と精神科医の医療連携

- 全国で推進されている取組み
- 福山・府中圏域では、H22年に府中地区医師会が県内で先駆けて実施



H24年度から圏域全体の取組みへと拡大

◆今年度の取組み

- H25年3月
- 圏域内の精神科医療機関の情報を掲載した「手引書」を作成
- 圏域内の医療機関に配付予定

◆実態調査報告書

- H25年3月
- 実態調査報告書をまとめ
- 関係機関に配付予定

- 調査結果を基に，うつ・自殺対策の課題を探り，取組みの見直しを行う

謝辞

- 実態調査の実施にあたり、
ご協力いただいた
皆様方に
厚くお礼申し上げます。

